

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106456		
法人名	(株)ささき		
事業所名	グループホーム みらい (1Fユニット)		
所在地	岡山県岡山市南区妹尾883-1		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 7 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・新型コロナウイルスの収束がつかず、前年度同様いつもの様な生活がままならない状況にありますが、施設内中で出来る事を楽しみとし、ミニ運動会をしたり毎月何かしら楽しめる様職員で話し合い利用者様に楽しんでもらえたと思います。最近では、動画配信を使って楽しく運動しています。みらいには広い庭があるので、草取りは大変ですが時期の良い時は利用者と一緒に草取りをしたり、畑にできた野菜と一緒に収穫したり楽しむことが出来ました。一度ですが運営推進会議も庭でする事ができ、ご家族の貴重なご意見を聞くことも出来ました。今後も利用者と一緒に庭でお食事をしたり、おやつを食べたり少しでも四季を感じる事ができたらと思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106456-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 3 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に喜んで頂ける施設を目指している。特に、手作りの食事が自慢で、利用者に毎日おいしい食事の提供をしている。評価当日は節分の日で、手作りキンパの恵方巻を食していた。コロナに負けない様々な取り組みとして、1.朝の副菜のみ業者に委託することで、もしもの時に備えて業者と関係をつないでいる。2.避難訓練を4回実施することで、夜勤職員の全員が訓練に携わることができ用意周到を目指している。災害時に、近隣の住民が避難することを想定して備蓄も多めに確保していた。3.昨年度の評価の課題を真摯に受け止め、コロナの状況が収まりつつある中で、運営推進会議を中庭で開催し、家族から生の意見が聞くことに努めた。4.WEB面会を実施したところ、時間制限がなく利用者が「心行くまで家族と会話できた」と喜びの声が聞けた。できない家族には、施設に訪問して頂き、WEB面会の場所を設けWEB面会を可能にした。この考えは、管理者の「一番は家族の方です」という強い思いの表れであろう。5.利用者に対しては、コロナの状況を見てドライブを実施し、職員が提案した牧場や桜や紅葉を堪能した様子が掲示された写真からも窺えた。コロナ終焉後も利用者・家族の意見を真摯に受け止め、喜んでいただける未来になるように、羽ばたく施設を目指していた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホールの見えやすい所に掲示。理念に基づき、利用者に関わる様努力している。また、家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごしていただいている。	理念は玄関と事務所、ホールに掲示している。ホールに貼ってある理念は、大きく手書きしたことで、より多くの職員の目に留まっている。会議の際に、新人職員から、「理念を見てます」という言葉が聞けた。個人目標を立てることで、職員の意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の資源ゴミ当番に参加。防災セミナー(地域活動)にも参加した。	利用者が製作した貼り絵を公民館に展示している。今年のテーマは動物園だったので、ペンギンと孔雀の作品を作った。町内会に加入しているので、回覧板の閲覧や資源化ゴミの清掃にも参加できた。公民館が主催する避難訓練に職員が参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館に近隣のGHと作品展示。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナの感染対策にて、全て書面会議で行っていたが、少し感染状況が落ち着いていた11月にみらいの中庭で開催することができた。	現在は書面会議で、連合町内会長、包括支援センターの方、事業者指導課、福寿会会長、町内会会長に郵送し、意見の返事があった。コロナの状況を見て、一番は家族の方だとの思いから急遽中庭での会議を開催したこともある。活動や研修、看取りの勉強会などについての報告を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面会議だが、日々の取り組みや問題点を報告。実績など知っていただいたうえで、助言を頂いている。	両ユニットの管理者が窓口となっている。書類は直接持参し、FAXか書面で回答が頂ける。包括から、「コロナ禍で視点をを変えて見たら、異なった楽しみ方がわかってよかった。」との意見を頂いた。地域の認知症の集いの参加案内や行事・イベントがあればいつでも声を掛けて頂ける関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては、職員全員が意識している。運営推進会議、身体拘束適正化検討委員会で話し合い、職員全員が理解する様にしている。不適切ケアについては何度も話し合いをしている。	身体拘束はしていない。扉に鈴をつけ見守ることで、利用者が自由に行き来できるようにしている。内部では虐待防止、身体拘束についての研修を実施し、外部の研修はWEBで参加している。毎月職員に不適切ケア防止チェックシートを配り、振り返る機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修のみだが、職員は虐待防止について、勉強会で学び、理解と共有に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者は居ないが、今後も学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書等の内容を説明し、理解・納得をして頂き締結にあっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の電話や、カンファレンス、運営推進会議等で意見、要望を聞けるように機会を持っている。	家族へは、電話や施設へ何か持って来た際に話を聞くようにしている。WEB面会を実施したら、時間に制限がなく心行くまで会話ができると好評だった。パソコンが苦手な方へは、施設に訪問してのリモート面会も受け入れている。利用者からの要望で、桜や紅葉を見に行き、アイスクリームを食べたこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と統括とは年2回職員との個人面談する機会を設けている。要望や相談があれば述べている。可能な事は反映されている。	毎月のスタッフ会議で、意見を聴取する機会を設けている。各ユニットの管理者が個別に話を聞く時もある。職員からの意見で、秋の運動会にyoutube体操を取り入れたり、おやつ作りの際には、利用者が楽しめるように工夫を凝らしたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員との個人面談での意見や要望を聞き取り、可能なものについては、改善し働きやすい環境整備に努めている。就業規則は何時でも見る事ができる所に置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は今年度はZOOMが多かった。内部研修は、月一回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、コロナの影響で回数は少ないが、メールで地域のGHの管理者と情報交換をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り要望を聞く様にし、入居後関わりを十分に持ち信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話で話をよく聞き、困っている事、不安や要望に耳を傾け、思い等確認し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向をよく聞き、本人の現状もよく聞き必要な支援内容について提案、説明を行なう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて出来る事を無理のない程度に手伝い等もっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や2ヶ月に一度の手紙で、近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、なかなか馴染みの人とは会えていないが、庭の整備を手伝っていただき、少しだが四季を感じていただいている。	窓際の長椅子が馴染みの場所となり、外を眺めたり、居眠りをしたりして過ごしている。ホールの指定席が落ち着く方もいる。中庭の畑に水をやるのが日課の利用者もいる。利用者から「今日の夜勤はだれ?」「今度いつ来るの?」との声上がり、職員が馴染みの人となっていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係を築けるよう席を決めている。気の合う者同士で過ごせる様に努め、トラブルにならない様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は、コロナの影響でなかなかお会いする機会ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話を通して、本人の思いや要望を把握し、可能な事は希望に添えるよう努めている。	担当制なので、利用者の思いや意向が把握しやすく、個人ファイルに記載することで情報共有ができています。「今の私」を活用して、希望や困っていることを把握することができています。お風呂などの1対1の場面で意見が出やすく、貴重な場となっている。	利用者のケアに繋がる情報共有を継続してほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの聞き取りやフェイスシート等で把握、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は記録に残し、気になる事は申し送る様にし、職員全員が現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に意向を聞き、介護計画を作成している。職員の意見も聞いている。又、状況の変化があれば、期間に捉われず見直しもしている。	入居時に暫定プランを作成し、1ヶ月後、3ヶ月毎に見直しをしている。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年ごとに見直しをしている。モニタリングは3ヶ月毎に実施している。利用者の様子が気になる場合には、ケアマネージャーを中心にケアカンファレンスを行うことで寄り添った介護となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践できた事は介護記録に残し、実践でできたかどうかは、介護支援チェックシートを活用し、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族共に会うこともままならず寂しい思いをされているので、ご家族には毎月の利用料の請求書を発送する際、日常のお写真を送っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でほとんどできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院できる利用者は、職員が付き添う。通院が難しい方は、往診していただいている。同行して下さる家族もいる。	かかりつけ医は、協力医に殆どの方が転医されている。緊急時には協力医がみてくれるので安心して任せることができています。月1～2回の往診があり、週1回来る訪問歯科の先生も今ではすっかり馴染みの関係となっている。他科へは職員が連れて行き、管理者から家族へ状況を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に1回/wの健康チェックを行なってもらい、指示、指導を受け、日常的な健康管理を行っている。気付いた事は、看護師に伝え相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人の情報を提供し、入院中は面会に行き、医療関係者や、家族から情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期には事前に医師、看護師、家族と話し合いはしている。説明した時は確認書にサインをもらっている。また、必要に応じて再確認している。	看取りは実施していて、先月看取りを行った。コロナ禍での看取りの取り決めを行うことで、家族に寄り添いながらも、より安心・安全で看取ることができた。年1回、看取りの研修も実施している。入居時に同意書を交わしているが、再度重度化した際には、さらにもう一度確認するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回は訪問看護師の指導で訓練している。何が起きても対応できるよう意識し仕事をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回火災・地震・水害の避難訓練を行なっている。どうすれば安全に避難できるか？また、どう改善すればいいか？その都度振り返り安全策を模索している。	夜勤を中心に年4回実施することで、夜勤職員が必ず訓練に参加できるように工夫している。避難経路とハザードマップは玄関に、連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、近隣の方が避難することを想定して多めに確保していて、お米、水、味噌汁などを3日分程、2階で保管している。職員からの意見でグループラインの連絡網を作成した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや関わりには気を付けている。特に排泄時は、他者が入らない様気配りしている。	呼称は苗字に「さん」付け。苗字が似ている方には、家族の了承の基、下の名前で「さん」付けで呼んでいる。排泄失敗時には、傍に寄り添って、「ちょっと汚れているから変えましょう」と耳元で言葉掛けをすることで自尊心を傷つけないように配慮している。居室へ入る時は、ノックしてから入室するようにしていて、チェックシートを活用し、再確認もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に耳を傾け、会話をする事で思いを汲み取り、可能な事は実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のスケジュールに沿って生活しているが、自由な時間には、好きなテレビを見たり、本人のしたい事を出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度散髪の訪問を利用している。衣類の選択等できる方は自分でしていただく。できない人は、髭剃りや整髪を介助したり衣類の選択を支援している。また、食べこぼし等で汚れた時は、その都度着替えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやテーブル拭き等、個々の能力に応じて出来る事をしていただいている。旬の食材や彩りにも気を付けて盛り付けをしている。	朝食の副菜がケイタリングで、それ以外は3食手作り。正月にはおせち料理、ひな祭りにはお寿司、誕生日には利用者からの要望を聞き取って、赤飯やお寿司を提供している。クリスマスケーキやかぼちゃのデザートが好評だった。評価当日は節分で、恵方巻を美味しく食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量、必要に応じて水分量をチェックし気をつけている。栄養バランスを考えた献立を作り、嚥下能力に合わせた食事形態で提供し、必要量摂取できる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助の必要な方は職員が介助。2回/W義歯洗浄剤を使用。訪問歯科を利用している方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が増えたからといってすぐに紙パンツや大きいパットに変えるのではなく排泄リズムの確保に努めオシメの使用を減らす様に心掛けている。	トイレは各ユニット3ヶ所あり、排泄チェックを活用している。入院中にオムツになった方がいたが、紙パンツからパットに改善された事例もある。立位で用を足している男性利用者もいて、布パンツで過ごしている方も数名おられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1ℓ以上の水分摂取や毎日の体操を行っている。便秘気味な方は、3～4日に一度は便が出る様便秘薬で調整している。それでも便秘気味の方は、スタッフの提案でおからパウダーや山芋を食事やお茶に混ぜて便秘解消を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日時は大体決まっているが、本人の気がすまない時は、時間をずらして再度声掛けする。違う職員が声を掛けたり、別の日に入浴してもらっている。	入浴は週2～3回で浸かる方が半数いて、シャワー浴の方もいる。入浴を拒否される方には、日時を変えて決して無理強いはしない方針。季節湯としてゆずを入れたり、入浴剤を使用したりすることもある。脱衣所は冷暖房完備で、温度調整もできている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は昼寝を促し、休息をとるようにしている。日中はなるべく身体を動かしたり、穏やかに過ごせるよう支援し、夜間の安眠に繋がる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が内服している薬、副作用、用法等確認し理解している。日々の様子観察で変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーの好きな方は昼食後に飲んでもらっている。洗濯物干し、縫い物が出来る方は、していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出が困難ではあるが、利用者の希望で少人数でドライブし気分転換されたり、おやつを買いに一緒に出かけたり、ごみ捨てに同行していただいたりしている。お散歩の好きな利用者もおられるので、近所を散歩したりしている。	職員からの情報で、夏には牧場へ行き、アイスクリームを頬張る利用者の様子が写真から窺うことができた。近所の散歩やドライブがてら深山公園へ行き、紅葉を見た。外出支援として、youtubeの体操やハロウィンの仮装パーティーを開催し、自家製パンプキンのモンブランが利用者に好評だった。	コロナの状況をみて、外出支援の継続をしてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かり保管・管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望あれば、家族に電話するようにしている。その時、本人と代わり話をする事もある。自らかけたりする事はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保っている。騒音や声のトーン、大きさで不穏になりやすいので、気を付けている。季節感を出す壁面など工夫している。	壁面には、季節に応じた作品や公民館に展示した作品も飾られている。行事やドライブでの写真をコメント入りで数多く掲示している。広告を使ってゴミ袋を作ったり、ハンドメイドの作品を作っている時が一番落ち着くという利用者もいる。自由な課題で、書初めをした作品が目を引いた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分で歩ける方は自由に居室に戻り、ゆっくりしている事もある。又、ソファーでおしゃべりしたり、好きな時代劇を観たり、新聞を読んで思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを設置したり、本人の好む物を居室に置いている。ぬいぐるみが好きな利用者は、居室でぬいぐるみと会話をしている。	備え付けは、タンス、クローゼット、エアコン。娘さんから手紙を大切に保管したり、入居前に作ったタペストリーを飾ったりしていた。誕生日にプレゼントされた色紙が利用者の生きた証となっていた。ぬいぐるみや人形と会話を楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さを利用者に合わせたり、トイレの手すりの位置が使いやすい方を使ってもらうなど利用者が安全に可能な範囲で自立できるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106456		
法人名	(株)ささき		
事業所名	グループホーム みらい (2Fユニット)		
所在地	岡山県岡山市南区妹尾883-1		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 7 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染対策の為気軽に外出できなくなったことで、どうやって利用者様の日常生活を気のあるものにできるか、を皆で取り組んできました。家族との関わりでは、感染者の少ない頃はパーテーション設置、あるいは気候の良い時期は中庭で少し距離を置いての面会、しかし感染拡大時期は自宅からのウェブ面会やホームに来て頂いて所定の場所でのウェブ面会を行いました。また馴染の場所を、皆で花を見たり野菜を収穫する中庭をその場所と捉え、外の空気を吸いながら昼食を摂り、草取りもし利用する機会を多くすると、利用者にとって中庭が大切な場所だと私達が気付かされました。運営推進会議については書面開催がメインでしたが、何とか家族に集まって頂く機会を設けようと中庭にて会議を開催したところ、ご家族から対面での会議は良かった、との感想を頂き、顔が見える事の大切さも実感しました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106456-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 3 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に喜んで頂ける施設を目指している。特に、手作りの食事が自慢で、利用者に毎日おいしい食事の提供をしている。評価当日は節分の日で、手作りキンパの恵方巻を食していた。コロナに負けない様々な取り組みとして、1.朝の副菜のみ業者に委託することで、もしもの時に備えて業者と関係をつないでいる。2.避難訓練を4回実施することで、夜勤職員の全員が訓練に携わることができ用意周到を目指している。災害時に、近隣の住民が避難することを想定して備蓄も多めに確保していた。3.昨年度の評価の課題を真摯に受け止め、コロナの状況が収まりつつある中で、運営推進会議を中庭で開催し、家族から生の意見が聞くことに努めた。4.WEB面会を実施したところ、時間制限がなく利用者が「心行くまで家族と会話できた」と喜びの声が聞けた。できない家族には、施設に訪問して頂き、WEB面会用の場所を設けWEB面会を可能にした。この考えは、管理者の「一番は家族の方です」という強い思いの表れであろう。5.利用者に対しては、コロナの状況を見てドライブを実施し、職員が提案した牧場や桜や紅葉を堪能した様子が掲示された写真からも窺えた。コロナ終焉後も利用者・家族の意見を真摯に受け止め、喜んでいただける未来になるように、羽ばたく施設を目指していた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホールの見えやすい所に掲示。理念に基づき、利用者に関わる様努力している。只地域に開かれたホームを目指す、についてはコロナ禍で難しく感じている	理念は玄関と事務所、ホールに掲示している。ホールに貼ってある理念は、大きく手書きしたことで、より多くの職員の目に留まっている。会議の際に、新人職員から、「理念を見てます」という言葉が聞けた。個人目標を立てることで、職員の意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で日常的に交流というのは困難だが、毎年公民館に地域のグループホームと一緒に利用者の作品展示をさせて頂いている。今年も展示し地域の人達に見て頂くことができた	利用者が製作した貼り絵を公民館に展示している。今年のテーマは動物園だったので、ペンギンと孔雀の作品を作った。町内会に加入しているので、回覧板の閲覧や資源化ゴミの清掃にも参加できた。公民館が主催する避難訓練に職員が参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館での利用者作品展示は毎年恒例になっており、展示できることで利用者は張りきるのでやりがいに繋がっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近所のふれあいセンターで開催を予定したがコロナ感染者が急増、キャンセルとなった。今年も書面開催だけになりそうだったが、みらいの中庭を利用し、屋外で対面での会議を開催し久しぶりに家族から生の声を聞くことができた	現在は書面会議で、連合町内会長、包括支援センターの方、事業者指導課、福寿会会長、町内会会長に郵送し、意見の返事があった。コロナの状況を見て、一番は家族の方だとの思いから急遽中庭での会議を開催したこともある。活動や研修、看取りの勉強会などについての報告を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ほとんどが書面会議だが、日々の取り組みや問題点を報告。実績など知っていただいたうえで、助言を頂いている。	両ユニットの管理者が窓口となっている。書類は直接持参し、FAXか書面で回答が頂ける。包括から、「コロナ禍で視点をを変えて見たら、異なった楽しみ方がわかってよかった。」との意見を頂いた。地域の認知症の集いの参加案内や行事・イベントがあればいつでも声を掛けて頂ける関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては、職員全員が意識している。運営推進会議、身体拘束適正化検討委員会で話し合い、職員全員が理解する様にしている。不適切ケアについても何度も話し合いをした。	身体拘束はしていない。扉に鈴をつけ見守ることで、利用者が自由に行き来できるようにしている。内部では虐待防止、身体拘束についての研修を実施し、外部の研修はWEBで参加している。毎月職員に不適切ケア防止チェックシートを配り、振り返る機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回以上虐待防止についての勉強会を開催し欠席者には動画で学ぶ機会を設けている。コロナ禍で講師を招くことが出来ていないが、今年度から毎月不適切ケア及び虐待防止のためのチェックシートで職員に点検してもらっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者は居ないが、zoom研修や動画で学ぶようにしている。今年度も動画で学ぶ予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書等の内容を説明し、理解・納得をして頂き締結にあっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会、カンファレンス、運営推進会議等で意見、要望を聞けるように機会を持っている。家族から行事の見学方法について意見があったが、まだ実現できていない	家族へは、電話や施設へ何か持って来た際に話を聞くようにしている。WEB面会を実施したら、時間に制限がなく心行くまで会話ができると好評だった。パソコンが苦手な方へは、施設に訪問してのリモート面会も受け入れている。利用者からの要望で、桜や紅葉を見に行き、アイスクリームを食べたこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者とは年2回職員と個人面談する機会を設けている。要望や相談があれば述べている。可能な事は反映されている。	毎月のスタッフ会議で、意見を聴取する機会を設けている。各ユニットの管理者が個別に話を聞く時もある。職員からの意見で、秋の運動会にyoutube体操を取り入れたり、おやつ作りの際には、利用者が楽しめるように工夫を凝らしたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員との個人面談で意見や要望を聞き取り、可能なものについては、改善し働きやすい環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は今年度は殆ど行っていないが、内部研修(施設内勉強会)は、月一回行い、その他zoomによる研修は必要に応じ受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の「きずなカフェ」にウェブで参加しGH以外の施設や病院ともコロナに関する情報交換を行う事が出来た。また、別ユニットの利用者の介護方法を学ぶための学習をユニット間で行っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り要望を聞く様にし、入居後関わりを十分に持ち信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話で話をよく聞き、困っている事、不安や要望に耳を傾け、思い等確認し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向をよく聞き、本人の現状もよく聞き必要な支援内容について提案、説明を行なう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて出来る事を無理のない程度に行ってもら等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一度の手紙には写真を添えて近況報告している。面会出来ても時間の制限や直接触れない等の制限があるため、家族には可能な限り細かい報告を来訪時や、電話で伝えるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、なかなか馴染みの人とは会えていないが、天気や気温と相談しながら、中庭で直接会えるように支援を行った。またウェブ面会で会えない家族とも会って話げできた	窓際の長椅子が馴染みの場所となり、外を眺めたり、居眠りをしたりして過ごしている。ホールの指定席が落ち着く方もいる。中庭の畑に水をやるのが日課の利用者もいる。利用者から「今日の夜勤はだれ?」「今度いつ来るの?」との声上がり、職員が馴染みの人となっていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係を築けるよう席を決めている。気の合う者同士で過ごせる様に努め、トラブルにならない様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は、コロナの影響でなかなかお会いする機会ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「ドライブに行きたい」と要望の強い利用者に対しコロナ禍ではあるが人の集まらない時間に紅葉や花見等出かけた。コロナ禍でも食べる楽しみは実現しやすいので、利用者の好きな食事や、大好きなおやつは毎月作る等してきた	担当制なので、利用者の思いや意向が把握しやすく、個人ファイルに記載することで情報共有ができています。「今の私」を活用して、希望や困っていることを把握することができています。お風呂などの1対1の場面で意見が出やすく、貴重な場となっている。	利用者のケアに繋がる情報共有を継続してほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの聞き取りやフェイスシート等で把握、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は記録に残し、気になる事は申し送る様にし、職員全員が現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に意向を聞き、介護計画を作成している。職員の意見も聞いている。又、状況の変化があれば、期間に捉われず見直しもしている。	入居時に暫定プランを作成し、1ヶ月後、3ヶ月毎に見直しをしている。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年ごとに見直しをしている。モニタリングは3ヶ月毎に実施している。利用者の様子が気になる場合には、ケアマネージャーを中心にケアカンファレンスを行うことで寄り添った介護となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践できた事は介護記録に残し、実践できたかどうかは、介護支援チェックシートを活用し、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	手紙や写真、窓越し面会、電話等で様子は知って理解してもらっていると思うが、生活の様子を見たいという思いはなかなか実現できない為、今年度もDVDに残し家族に送る予定		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中庭を面会の場所にすることで家族と直接会う事ができた。畑の野菜の収穫を楽しんだり、花壇に花を植えてコスモスを見ながら昼食を摂ってもらう等「外の空気が気持ちいい」とささやかな楽しみを感じてもらえた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院できる利用者は、職員が付き添う。通院が難しい方は、往診していただいている。同行して下さる家族もいる。	かかりつけ医は、協力医に殆どの方が転医されている。緊急時には協力医がみてくれるので安心して任せることができています。月1～2回の往診があり、週1回来る訪問歯科の先生も今ではすっかり馴染みの関係となっている。他科へは職員が連れて行き、管理者から家族へ状況を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に1回/wの健康チェックを行なってもらい、指示、指導を受け、日常的な健康管理を行っている。気付いた事は、看護師に伝え相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人の情報を提供し、入院中は電話で医療関係者や、家族から情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期には事前に医師、看護師、家族と話し合いは行っている。コロナ禍での看取りはそれ以前とは異なるため、家族に施設の方針を理解してもらい、施設側は家族の思いも受け止めながら看取りを行っている。	看取りは実施していて、先月看取りを行った。コロナ禍での看取りの取り決めを行うことで、家族に寄り添いながらも、より安心・安全で看取ることができた。年1回、看取りの研修も実施している。入居時に同意書を交わしているが、再度重度化した際には、さらにもう一度確認するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回は訪問看護師の指導で訓練している。、何が起きても対応できるよう意識し仕事をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回火災・地震・水害の避難訓練を行なっている。訓練後に振り返りを行い課題抽出、連絡網を見直しグループLINE等を作った	夜勤を中心に年4回実施することで、夜勤職員が必ず訓練に参加できるように工夫している。避難経路とハザードマップは玄関に、連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、近隣の方が避難することを想定して多めに確保していて、お米、水、味噌汁などを3日分程、2階で保管している。職員からの意見でグループラインの連絡網を作成した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや関わりには気を付けている。特に排泄時は、他者が入らない様気配りしている。	呼称は苗字に「さん」付け。苗字が似ている方には、家族の了承の基、下の名前で「さん」付けで呼んでいる。排泄失敗時には、傍に寄り添って、「ちょっと汚れているから変えましょう」と耳元で言葉掛けをすることで自尊心を傷つけないように配慮している。居室へ入る時は、ノックしてから入室するようにしていて、チェックシートを活用し、再確認もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に耳を傾け、会話をする事で思いを汲み取り、可能な事は実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のスケジュールに沿って生活しているが、自由な時間には、好きなテレビを見たり、本人のしたい事を出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度散髪の訪問を利用している。衣類の選択等できる方は自分でしていただく。できない人は、髭剃りや整髪を介助したり衣類の選択を支援している。また、食べこぼし等で汚れた時は、その都度着替えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやテーブル拭き等、個々の能力に応じて出来る事をしていただいている。旬の食材や彩りにも気を付けて盛り付けをしている。	朝食の副菜がケイタリングで、それ以外は3食手作り。正月にはおせち料理、ひな祭りにはお寿司、誕生日には利用者からの要望を聞き取って、赤飯やお寿司を提供している。クリスマスケーキやかぼちゃのデザートが好評だった。評価当日は節分で、恵方巻を美味しく食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量、必要に応じて水分量をチェックし気をつけている。ムセが多かったりお茶を好まず水分量の少ない利用者には喉越しのよいゼリーや葛湯あるいは好きな飲み物等を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助の必要な方は職員が介助。口腔ケア拒否の多い利用者もいて、週1回訪問歯科できれいにしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が増えたからといってすぐに紙パンツや大きいパットに変えるのではなく排泄リズムの確保に努めオシメの使用を減らす様に心掛けている。	トイレは各ユニット3ヶ所あり、排泄チェックを活用している。入院中にオムツになった方がいたが、紙パンツからパットに改善された事例もある。立位で用を足している男性利用者もいて、布パンツで過ごしている方も数名おられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日10以上の水分摂取や毎日の体操を行っている。便秘気味な方は、3～4日に一度は便が出る様便秘薬で調整している。適度な運動の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日時は大体決まっているが、本人の気がすまない時は、時間をずらして再度声掛けする。違う職員が声を掛けたり、別の日に入浴してもらっている。	入浴は週2～3回で浸かる方が半数いて、シャワー浴の方もいる。入浴を拒否される方には、日時を変えて決して無理強いはしない方針。季節湯としてゆずを入れたり、入浴剤を使用したりすることもある。脱衣所は冷暖房完備で、温度調整もできている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は昼寝を促し、休息をとるようにしている。日中はなるべく身体を動かしたり、穏やかに過ごせるよう支援し、夜間の安眠に繋がる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が内服している薬、副作用、用法等確認し理解している。日々の様子観察で変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーの好きな方が多く昼食後に用意している。洗濯物干し、縫い物が出来る方は、していただいている。また、お天気のいい日は庭での散歩について、気分転換をいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は行っていないが季節を味わえるような外出は積極的に行った。コロナ感染者が少ない時期にはアイスクリームを食べに行き、利用者へのんびりと過ごしてもらえた	職員からの情報で、夏には牧場へ行き、アイスクリームを頬張る利用者の様子が写真から窺うことができた。近所の散歩やドライブがてら深山公園へ行き、紅葉を見た。外出支援として、youtubeの体操やハロウィンの仮装パーティーを開催し、自家製パンプキンのモンブランが利用者に好評だった。	コロナの状況をみて、外出支援の継続をしてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かり保管・管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く利用者はいないが年賀状については自ら書く利用者もいる。電話はかけるが、コロナ禍でははウェブ面会を勧めている。利用者も家族も会えた気持ちになってくれるので。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保っている。騒音や声のトーン、大きさが不穏になりやすいので、気を付けている。季節感を出す壁面など工夫している。	壁面には、季節に応じた作品や公民館に展示した作品も飾られている。行事やドライブでの写真をコメント入りで数多く掲示している。広告を使ってゴミ袋を作ったり、ハンドメイドの作品を作っている時が一番落ち着くという利用者もいる。自由な課題で、書初めをした作品が目を引きいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分で歩ける方は居室に戻りゆっくりし、廊下の端に椅子を置いているので外の景色を見て過ごす事もある。ソファーでおしゃべりしたり、好きな時代劇を観たり思い思いに過ごす人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを設置したり、本人の好む物を居室に置いている。ぬいぐるみが好きな利用者は、居室でぬいぐるみと会話をしている。写真を沢山貼っている利用者もいる。	備え付けは、タンス、クローゼット、エアコン。娘さんから手紙を大切に保管したり、入居前に作ったタペストリーを飾ったりしていた。誕生日にプレゼントされた色紙が利用者の生きた証となっていた。ぬいぐるみや人形と会話を楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さを利用者に合わせたり、トイレの手すりの位置が使いやすい方を使ってもらうなど利用者が安全に可能な範囲で自立できるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				